LIFE in SHINSHU 02

里山と、素のままに暮らす

Builder：Archi Airs　Place：塩尻市　Family：夫婦

子どもの頃と変わらずにいてくれた里山の眺めを、窓いっぱいに取り込んで。旬を迎えた野菜は、その持ち味を引き出しながら余すところなくいただいて。せっかくここに暮らすのだからと、土地の魅力をあるがままに慈しむ夫婦の暮らし。そこに、自分たちらしいアクセントを添えることも忘れない。



A | B | C | D

A_子育てがひと段落したこともきっかけとなり、夫婦二人で長野県へ移住した。おいしい料理とお酒を楽しむ共通の趣味は、今この家で満喫している。　B_LDKの南側はほぼ全面が窓。バッシブデザインと高い断熱性能により、夏の日差しや冬の寒さ対策はバッチリ。　C_デッキにおいたチェアに腰掛けると、室内では気づかなかった風の匂いや温度、鳥たちの声を身近に感じる。　D_キッチン脇のワークスペースでは、友人のビジネスをリモートで手伝うことも。作業の合間に窓の外へ目をやれば、里山の風景に癒やされる。







ポツンと一軒家でもなく
賑やかな市街地でもなく

ご主人の実家のあるこのまちに夫妻が移住したのは2026年3月のことです。いつかは庭で家庭菜園を楽しみながら、のんびりとした田舎暮らしを送りたかったこと、注文で建てて7年間暮らした家を売却できる目処がついたこと、二人の子がともに社会人となり、子育てにひと段落ついたことが、移住を決断した理由です。

思い描いていた田舎暮らしをとこで実現するか。北海道？ それとも瀬戸内？　夢は膨らみましたが、まったく知らない土地で人間関係に悩むより、幼い頃からずっと好きで、慣れ親しんだ風景が変わらずにあるふるさとを選びました。

ただ、地方で暮らすからといって、ポツンと一軒家では生活インフラや将来のことが不安ですし、中心市街地では都会の喧騒を離れた意味がありません。そんなとき、奇跡的に出会ったのが、広さ150坪のこの土地でした。霧訪山（きりとうやま）へと連なる里山の麓にあり、高速道路のインターチェンジやJRの駅へのアクセスも良好。車があれば買い物にも不自由しません。

身近な里山の四季を
ありのままに味わうように

夫婦で暮らすのに必要最小限のスペースで、水周りや収納への配慮が行き届いた26坪ほどの平屋を、このゆとりある敷地に建てました。家の中に入って驚くのが、LDK





の開放感です。南側の窓の大きさの、なんと贅沢なこと。５間(約９m)にわたる連窓に映るのは、穏やかな里山の表情です。

身近な里山には勇壮なアルプスとはひと味違う滋味があります。その気負いのない優しさも、ときに見せる素っ気なさも、あるがままに楽しもうと、夫妻はこの大開口にこだわりました。食事のときも、リビングでくつろいでいるときも、キッチンに立つときも、四季の里山が自然と目に入ります。

連窓の向こうには大きなデッキが張り出し、自然の息吹をよりダイレクトに感じられます。それだけでなく、屋内と屋外をつなぎ、馴染ませる役割も、このスペースが担ってくれています。

里山の眺めのほかにも、二人は身近にある食材を“素”のままで味わうことを大切にしています。おいしいものを食べながら、おいしいお酒を飲む共通の趣味も、こちらに越してからは、もっぱら家で楽しむようになりました。料理に腕を振るうのは、自

E
F
G
H | I
J

E_5間通しの大開口に息を飲む。床材にはミズナラ、天井にはアガチスを使用。「二人でいる時間が一番長いから」と、LDKを目いっぱい広くした。 F_シンプルで使い勝手のいいキッチン。照明や小物の置き方も、自分らしさにこだわり、ここに立つ時間を楽しんでいる。 G_150坪の敷地にコンパクトな平屋を建てた。以前住んでいた注文住宅が15坪ほどの土地に3階建てだったのとは対照的だ。 H•I_キッチンの窓の前に家庭菜園があり、野菜の育ち具合をみながら、ほどよく育ったものを必要なだけ収穫。その日の食卓に並べる。 J_キッチンに立つ目線から、ダイニングに腰掛けた目線、そしてリビングのソファに寝そべった目線へ。視線が低くなるにつれ、リラックスの度合いも深まっていく。













称「食いしん坊」の奥様。移住して改めて知った野菜や果物の新鮮さ、おいしさを生かしきる腕前を、一番近くで知るご主人は、お昼ご飯も家に帰っていただきます。

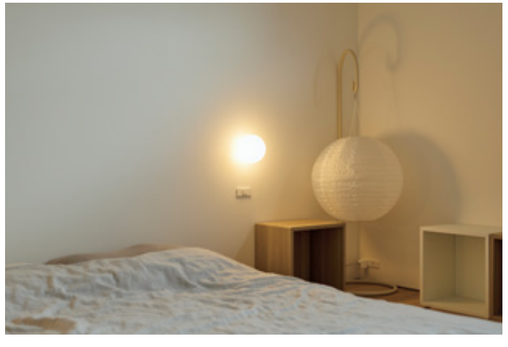
奥様は今日もキッチン前の畑からピーマンを摘んできて、早速刻み始めました。

ご主人自慢のハイボールは生ライムをきかせて

自宅の畑で採れた野菜のほか、移住を機に農業を志したご主人の勤める農業法人で出た「はねもの」やいただきものなと、旬になれば同じ野菜がたくさん集まります。「茄子ジゴク」「人参ジゴク」「葱ジゴク」と笑いながら、あの手この手で今晩の肴へ、保存食へと、野菜たちを余すことなく変身させていく奥様の料理センスは、素材への慈しみから生まれるものでしょう。

一方、お酒の担当はご主人。手慣れた所作で流れるようにつくる自慢のハイボールは、生ライムを搾るのが譲れないポイントで、その爽やかな１杯は奥様も大ファンです。どうやら二人は、素を大切にするだけでなく、素の良さをさらに引き立てるアクセントの効かせ方も巧いのです。

「さっき採ったピーマンで今夜はチンジャオロースーにしようか？」「いいねえ」。今夜も、ライムのきいたウイスキーハイボールの出番のようです。











K_真南に向いた日当たりの良い場所。冬も暖かく、観葉植物の生長も良好だという。　L_ハニカムスクリーンを備えているが、普段は下ろすことがない。目隠し壁が効いているし、外の眺めにいつも触れていたいからだ。　M_LDK以外で唯一の居室は寝室。照明はベッド下の間接照明とベッドサイドの照明のみ。　N_洗面所と洗濯室。デザインはアーキエアーズの展示場や、同社の手がけた住宅を参考にした。　O_外壁は特徴的なスギ板張り。新しい家でありながら味があり、年月を重ねるほどに風合いも深まっていく。　P_LDKの前には大きなウッドデッキを設けた。リビングの延長のようで、友人を招いてバーベキューをするにも、十分な広さがある。　Q_敷地に対して建物を斜めに配置したのは、リビングやデッキを真南へ向け、大好きな里山の眺めと陽光を取り入れるため。



OWNER　Kさん

POINT 1　信州に暮らしてよかったこと

野菜や果物がおいしく、食べる量が増えて健康的な食生活になった。車がないと大変ですが、道が空いていて景色もきれいなので、運転が楽しいです。

POINT 2　家づくりでよかったこと

アーキエアーズはデザインと性能を高レベルで両立し、コスト面でも優秀。何より担当の今井さんへの絶対的な信頼が、いい家づくりにつながりました。

POINT 3　先輩としてのアドバイス

移住後の生業をはじめ目的を見失わないこと。旅行とは違ってずっと暮らしていくのですから、その土地のことをよく調べておくことをおすすめします。

Archi Airs（株式会社 アルプスピアホーム）
長野市西尾張部 1030-2　SBC長野中央ハウジングパーク内
0120-302-823
https://www.archi-airs.jp